

新ユニット・リンク保険(有期型)【無配当】(一時払)  
ライフドゥ

LifeDO

ライフドゥ80

LifeDO<sub>80</sub>

# 月次運用実績レポート

## 2012年4月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株投資力学ファンド	日興アクティブ・ダイナミクス (投資力学)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株ジパングファンド	日興ジャパンオープン(ジパング)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株エボリューションファンド	日興エボリューション	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (運用再委託会社)ファンネクス・アセット・マネジメント株式会社
日本株インデックス225ファンド	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株インデックスTOPIXファンド	インデックスファンドTSP	日興アセットマネジメント株式会社
グローバルグロースファンド	G グロース	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (運用再委託会社)ウェリントン・マネジメント・カンパニー・エルエルピー
グローバルソブリン債券ファンド	日興・GS 世界ソブリン・ファンド VA	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資助言会社)ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
グローバルリートファンド	日興・AMP グローバル REIT ファンド (6ヶ月決算型)	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資再委託会社)AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッド
グローバルカレンシーファンド	メロン・オフショア・ファンズ・ 日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)	(管理会社)BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド (投資運用会社)BNYメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド (副投資運用会社)メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーション
マネーファンド	日興 MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	日興アセット・マネジメント株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>  
SMBC日興証券株式会社

アクサ生命保険株式会社



redefining / standards



SMBC日興証券

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3  
TEL 0120-933-399  
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

<特別勘定の種類>

# 日本株投資力学ファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標にします。

## 運用実績<ユニット・プライス\*>の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



## 特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株投資力学ファンド	▲4.62%	7.99%	6.23%	▲4.71%	▲5.41%	▲17.55%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.6
投資信託	97.4
合計	100.0

## 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

### 日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)

日本株投資力学ファンドの主な投資対象である投資信託「日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

#### <基準価額の騰落率>

設定日2000年12月15日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)	8.22%	6.50%	▲4.46%	▲4.72%	▲47.45%
TOPIX	6.49%	5.26%	▲5.59%	▲4.00%	▲41.39%

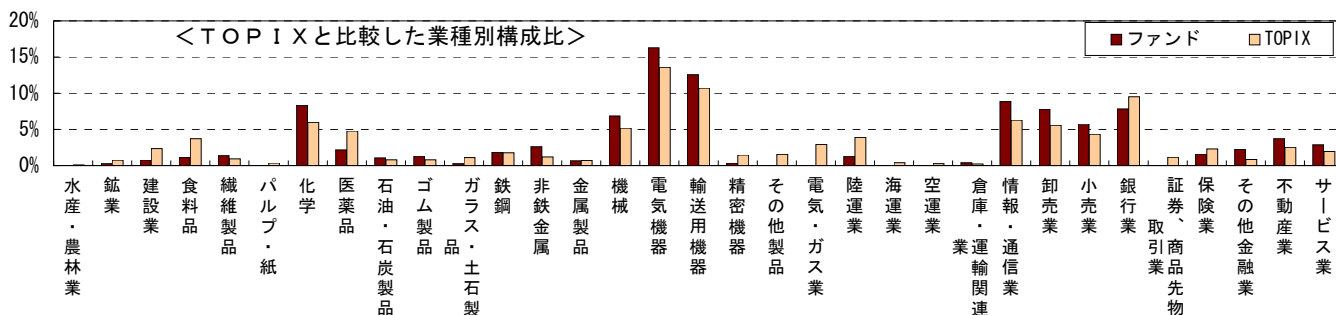
基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

#### <資産構成比率>

	2012年4月末
株式	95.1%
うち先物	0.0%
現金その他	4.9%

#### <株式組入上位10銘柄>(銘柄数 127銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	日立製作所	電気機器	4.00%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.38%
3	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	3.35%
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.93%
5	日産自動車	輸送用機器	2.57%
6	三井物産	卸売業	2.52%
7	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.41%
8	本田技研工業	輸送用機器	2.40%
9	小松製作所	機械	2.36%
10	キャノン	電気機器	2.16%



※「資産構成比率」、「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計を100%として計算したものです。  
 ※「株式組入上位10銘柄」、「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

#### <運用コメント>

今月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス5.86%とほぼ月を通して下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことを受けて下げて始まりました。その後もアメリカドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国で雇用統計や中古住宅販売件数など市場予想に反する内容の経済統計の相次ぐ発表、中国の景気減速を示唆する経済指標の発表、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なって、月末にかけて下げ幅を広げました。東証33業種分類では、すべての業種で前月末比下落しました。

今月の主な投資行動としては、大きく上昇した大型輸出関連株の一部を利益確定売りする一方、業績が好調に推移しているにもかかわらず、株価が出遅れている内需株の買い増しを行いました。また、今期大幅増益が見込め、株価にまだ割安感があると考えられる銘柄の組み入れを行いました。

業績の堅調さが確認出来た情報サービス株や消費関連株の株価上昇がプラスに寄与する一方、商品市況の軟調を受けて下落した商社・石油関連株の株価下落がマイナスに寄与し、1.14%のアウトパフォーマンスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

# 日本株ジパングファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目標とします。

運用実績〈ユニット・プライス\*〉の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日本株ジパングファンド	▲5.07%	8.46%	6.48%	▲4.43%	8.66%	4.20%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.6
投資信託	98.4
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

## 日興ジャパンオープン(ジパング)

日本株ジパングファンドの主な投資対象である投資信託「日興ジャパンオープン(ジパング)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日1998年8月28日

	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日興ジャパンオープン(ジパング)	8.77%	6.84%	▲4.25%	9.57%	▲31.72%
TOPIX	6.49%	5.26%	▲5.59%	▲4.00%	▲28.00%

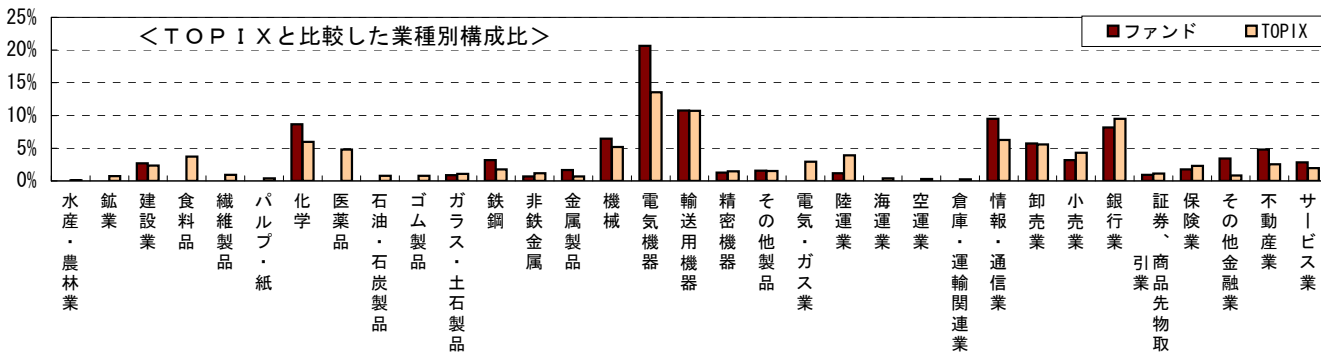
基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈資産構成比率〉

	2012年4月末
株式	97.7%
うち先物	0.0%
現金その他	2.3%

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数 94銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.42%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.33%
3	ファナック	電気機器	2.74%
4	小松製作所	機械	2.64%
5	日立製作所	電気機器	2.60%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.42%
7	日産自動車	輸送用機器	2.33%
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.26%
9	三井不動産	不動産業	2.15%
10	本田技研工業	輸送用機器	2.08%



※「資産構成比率」、「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計を100%として計算したものです。  
 ※「株式組入上位10銘柄」、「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

〈運用コメント〉

4月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス5.86%、日経平均株価は同マイナス5.58%とほぼ月を通して下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことなどを受けて下げて始まりました。その後もアメリカドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国と中国で景気減速を示唆する経済指標の発表が相次いだこと、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なり、月末にかけて下げ幅を広げました。東証33業種分類では、すべての業種で前月末比下落しました。

当ファンドでは、成長分野での高い競争力や事業再編効果などによって今後の業績拡大が期待できる企業の選別を進め、株価の割安性も重視した運用を行ないました。中期的な観点から、世界で高いシェアを持つ企業や、構造改善によって今後の業績改善ペースが早いと見られる企業に重点を置いた運用を行なっています。今月の主な投資行動としては、世界経済の回復ペースがやや鈍化していることなどを考慮して、石油、商社、鉄鋼など資源、商品市況関連の一部を売却する一方で、来期以降の業績回復が期待できる電気機器、不動産、情報・通信などを買付けました。このような運用の結果、当月末における当ファンドの基準価額は前月末比でマイナス5.13%となり、TOPIXのマイナス5.86%を上回りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

2012年4月末現在

## 〈特別勘定の種類〉 日本株エポリューションファンド

全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象とする  
 投信信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることを目指します。

### 運用実績〈ユニット・プライス〉の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



### 特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株エポリューションファンド	▲3.23%	12.09%	4.21%	▲11.21%	▲1.62%	▲34.28%

### 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.3
投資信託	98.7
合計	100.0

### 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

## 日興エポリューション

日本株エポリューションファンドの主な投資対象である投資信託「日興エポリューション」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

#### 〈基準価額の騰落率〉

設定日2000年4月21日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興エポリューション	12.35%	4.39%	▲11.07%	▲0.64%	▲65.59%

基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

#### 〈株式組入上位10銘柄〉 (銘柄数 42銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	アンリツ	日本円	電気機器	8.95%
2	富士重工業	日本円	輸送用機器	6.36%
3	太平洋セメント	日本円	ガラス・土石製品	6.24%
4	遠藤照明	日本円	電気機器	5.89%
5	DOWAホールディングス	日本円	非鉄金属	4.03%
6	東京建物	日本円	不動産業	3.98%
7	いすゞ自動車	日本円	輸送用機器	3.54%
8	イオンクレジットサービス	日本円	その他金融業	3.28%
9	アイシン精機	日本円	輸送用機器	3.23%
10	ゼビオ	日本円	小売業	3.10%

※「株式組入上位10銘柄」は純資産総額を100%として計算したものです。

#### 〈投資テーマ別組入状況〉

投資テーマ	比率
新消費・サービス産業	5.6%
インテリジェント・ロボティクス	13.5%
コンテンツ/ネットワーク・サービス	19.7%
ジャパン・リサイクル(日本再生)	24.1%
ニュー・ライフスタイル・クリエーション	5.6%
新エネルギー・環境サービス産業	31.4%
その他	0.0%

※2006年7月31日付けのマンスリーレポートより「投資テーマ」の分類を変更しております。

※「投資テーマ別組入状況」は組入株式の評価額の合計を100%として計算しています。

※上記「投資テーマ」は将来変更になる場合があります。

#### 〈運用コメント〉

4月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス5.86%、日経平均株価は同マイナス5.58%とほぼ月を通して下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことを受けて下げが始まりました。その後もアメリカドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国で雇用統計や中古住宅販売件数など市場予想に反する内容の経済統計の相次ぐ発表、中国の景気減速を示唆する経済指標の発表、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なって、月末にかけて下げ幅を広げました。東証33業種分類では、すべての業種で前月末比下落しました。

このような環境下、「日興エポリューション」は前月末比マイナス3.25%となりました。一部の銘柄のポジション調整をすることはありましたが、全体的なポジションを大きく動かすことはありませんでした。月間の寄与度で見ると、上位には、高まる節電需要で注目されるLED照明企業などが入った一方、下位には、円高進行の業績に与える影響が懸念された完成車メーカーなどが入りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。



<特別勘定の種類>

# 日本株インデックス225ファンド

国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることを目指します。

## 運用実績<ユニット・プライス\*>の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



## 特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス225ファンド	▲5.56%	8.91%	6.70%	▲2.01%	11.27%	15.95%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	0.9
投資信託	99.1
合計	100.0

## 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

### インデックスファンド225

日本株インデックス225ファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンド225」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

#### <基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンド225	9.07%	6.86%	▲1.82%	12.09%
日経225	8.16%	5.92%	▲3.34%	7.85%

基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

#### <国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	21.5%
2	小売業	10.5%
3	情報・通信業	8.7%
4	輸送用機器	7.0%
5	医薬品	6.5%

#### <資産構成比率>

株式	100.0%
うち先物	2.7%
現金その他	2.6%

- ※ 「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。
- ※ 「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。業種は東証33業種分類によるものです。
- ※ 「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

#### <株式組入上位10銘柄> (銘柄数: 225銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	7.45%
2	ファナック	電気機器	5.65%
3	京セラ	電気機器	3.27%
4	ソフトバンク	情報・通信業	2.99%
5	本田技研工業	輸送用機器	2.41%
6	キヤノン	電気機器	2.29%
7	KDDI	情報・通信業	2.18%
8	信越化学工業	化学	1.93%
9	東京エレクトロン	電気機器	1.85%
10	TDK	電気機器	1.75%

#### <運用コメント>

4月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比マイナス5.58%と下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことなどを受けて、日経平均株価は下落して始まりました。以降、反発する局面もありましたが、アメリカドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国で雇用統計や中古住宅販売件数など市場予想に反する内容の経済統計の相次ぐ発表、中国の景気減速を示唆する経済指標の発表、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なり、軟調な展開となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

# 日本株インデックスTOPIXファンド

国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることが目標になります。

運用実績<ユニット・プライス\*>の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス TOPIXファンド	▲5.86%	7.25%	6.02%	▲4.08%	▲0.35%	▲0.26%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.2
投資信託	98.8
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

## インデックスファンドTSP

日本株インデックスTOPIXファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンドTSP」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
インデックス ファンドTSP	7.48%	6.26%	▲3.90%	0.36%
TOPIX	6.49%	5.26%	▲5.59%	▲4.00%

基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<資産構成比>

株式	100.0%
うち先物	3.4%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	3.4%
外貨建資産	0.0%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	13.6%
2	輸送用機器	10.7%
3	銀行業	9.5%
4	情報・通信業	6.3%
5	化学	6.0%

※「資産構成比」、「国内株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

※「国内株式組入上位5業種」、「国内株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 1641銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.85%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.60%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.19%
4	キャノン	電気機器	2.05%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.74%
6	日本電信電話	情報・通信業	1.48%
7	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.45%
8	ファナック	電気機器	1.27%
9	武田薬品工業	医薬品	1.23%
10	三菱商事	卸売業	1.13%

<運用コメント>

◎運用概況

当ファンドはTOPIX(東証株価指数)に連動した投資成果をめざすファンドです。実際の運用は、「インデックス マザーファンド TOPIX」受益証券を高位に組入れ、株式先物を利用して実質株式組入比率を100%程度で推移させています。「インデックス マザーファンド TOPIX」では、「バーラ 日本株式モデル」を使用して1,600銘柄程度に投資し、TOPIXへの連動性の高いポートフォリオを構築するとともに、株式先物を利用して実質の株式組入比率を100%程度で推移させています。

4月における当ファンドの基準価額は、TOPIXの5.86%の下落に対し、5.92%の下落となりました。今後もこれまでの運用方針を継続し、TOPIXに連動した投資成果を目指します。

◎株式市況

4月の国内株式市場は、TOPIXが前月末比マイナス5.86%とほぼ月を通して下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことを受けて下げて始まり、その後ドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国で雇用統計や中古住宅販売件数など市場予想に反する内容の経済統計の相次ぐ発表、中国の景気減速を示唆する経済指標の発表、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なって、月末にかけて下げ幅を広げました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

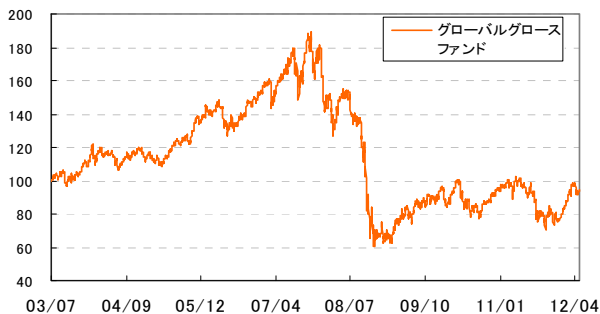
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## <特別勘定の種類> グローバルグロースファンド

日本を含む世界主要先進国の株式のなかから特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体(MSCI ワールド指数)の動きを上回る投資成果の獲得を目指します。

### 運用実績<ユニット・プライス\*>の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



### 特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルグロースファンド	▲2.09%	14.27%	11.66%	▲6.33%	22.30%	▲5.45%

### 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.4
投資信託	98.6
合計	100.0

### 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

## Gグロース

グローバルグロースファンドの主な投資対象である投資信託「Gグロース」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

#### <基準価額の騰落率>

設定日2001年4月20日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gグロース	14.77%	11.93%	▲6.42%	23.30%	▲22.17%
MSCI ワールド指数	10.98%	7.69%	▲6.71%	21.21%	▲23.06%

基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

#### <資産構成比>

国内株式(先物含む)	4.5%
外国株式(先物含む)	91.7%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	3.9%

#### <株式組入上位10銘柄>(銘柄数 74銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	APPLE COMPUTER INC	アメリカドル	テクノロジー・ハードウェア	5.0%
2	ORACLE CORP	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	2.7%
3	EMC CORP/MASS	アメリカドル	テクノロジー・ハードウェア	2.7%
4	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカドル	各種金融	2.1%
5	EBAY INC	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	2.1%
6	SAFRAN SA	ユーロ	資本財	1.7%
7	SANDS CHINA LTD	香港ドル	消費者サービス	1.7%
8	AMAZON.COM INC	アメリカドル	小売	1.6%
9	PRICELINE.COM INC	アメリカドル	小売	1.6%
10	STANDARD CHARTERED PLC	イギリスポンド	銀行	1.5%

#### <株式組入上位5カ国>

1	アメリカ	60.4%
2	フランス	5.8%
3	イギリス	5.6%
4	日本	4.5%
5	スイス	3.5%

※「株式組入上位5カ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

#### <運用コメント>

世界的にマクロ経済統計は引き続き緩やかな景気回復を示していますが、地域によってばらつきがあります。4月のグローバル株式市場は米国が小幅下落、欧州は最も軟調で、日本を除くアジア太平洋地域は堅調でした。米国市場は、前半はスペインの財政問題への懸念と雇用市場改善の鈍化から下落しました。後半は事前予想に比べて総じて良好な企業決算から底堅く推移しました。欧州市場も前半はスペインの国債利回りの上昇やイタリア大手銀行の株価急落など南欧財政問題への懸念から大幅な下落となりました。後半も政策期待による一時的反発の後、ユーロ圏PMI(購買担当者指数)が予想を下回ったことから下落しました。企業収益改善期待による小反発はあるも上値の重いまま月末を迎えました。

このようななか、ボトムアップによる銘柄選択に基づき、ヘルスケアセクターの銘柄を積み増した一方、金融セクターおよび素材セクターの保有銘柄などを売却しました。ヘルスケアセクターでは、米バイオ医薬品大手を新たに組み入れました。同社はHIV関連治療薬の持続的な伸びに加えて、C型肝炎治療薬でも世界的に競争力の高い主要メーカーとして成長すると見えています。素材セクターでは、リン酸肥料やカリ肥料を世界中に供給する米国の会社を売却しました。同社はコンセンサス予想を下回る第3四半期決算を発表しました。金融セクターでは、様々な理由からブラジルの大手銀行を売却しました。政治主導の政策が銀行の基本業務に悪影響を及ぼすと思われるからです。

4月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは、情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービス、対してアンダーウェイトとしているのは金融、エネルギー、および生活必需品、公益事業、電気通信サービス、ヘルスケアなどディフェンシブ色の強いセクターです。

今後も銘柄選択ならびにセクター選択を重視し、世界のリーディング・カンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行なっていきます。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# 〈特別勘定の種類〉 グローバルソブリン債券ファンド

世界先進国の信用度の高いソブリン債(※)を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。  
(※ソブリン債とは、各国政府や政府機関が発行する債券の総称です。主要先進国の国債や世界銀行、アジア開発銀行などの国際機関が発行する債券が含まれます。)

## 運用実績〈ユニット・プライス\*〉の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



## 特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
グローバルソブリン債券ファンド	▲0.39%	8.10%	5.18%	0.10%	▲3.80%	1.24%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.2
投資信託	97.8
合計	100.0

## 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

### 日興・GS世界ソブリン・ファンドVA

グローバルソブリン債券ファンドの主な投資対象である投資信託「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA」の運用状況をご参考のため掲載します。  
(出所:日興アセットマネジメント株式会社、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社)

#### 〈基準価額の騰落率〉

設定日2003年6月30日

	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日興・GS世界ソブリン・ファンドVA	8.40%	5.43%	0.38%	▲3.23%	0.09%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

#### 〈ファンド情報〉

平均格付	AA+
平均クーポン	6.37%
平均利回り	1.09%

※格付けは、S & P社によるものを原則としています。

#### 〈通貨比率〉

	ポートフォリオ
米ドル	46.33%
米ドル以外のドル圏	20.93%
ユーロ	40.39%
ユーロ以外の欧州通貨	5.16%
日本円	▲12.81%

#### 〈債券組入上位銘柄〉

	銘柄名	クーポン	償還日	通貨	格付	構成比
1	ドイツ国債	6.25%	2024/1/4	ユーロ	AAA	19.8%
2	ドイツ国債	6%	2016/6/20	ユーロ	AAA	16.9%
3	アメリカ国債	8.75%	2020/8/15	米ドル	AA+	16.3%
4	ドイツ国債	4.25%	2018/7/4	ユーロ	AAA	10.8%
5	アメリカ国債	8.875%	2017/8/15	米ドル	AA+	8.9%
6	アメリカ国債	11.25%	2015/2/15	米ドル	AA+	8.1%

※「債券組入銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。

※下記の「通貨比率」および「債券地域別比率」は、運用委託先のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントから提供を受けた直近の資産配分変更時のモデル・ポートフォリオの配分を示しています。実際の金額配分は下記とは異なる場合があります。

#### 〈債券地域別比率〉

	ポートフォリオ
米国	33.79%
米国以外のドル圏	0.89%
ユーロ圏	82.12%
ユーロ圏以外の欧州	13.19%
日本	▲6.21%

#### 〈運用コメント〉

◎4月の市場動向

##### 〈債券市場〉

当月の債券市場は、主要市場が全般的に上昇(利回りは低下)しました。本ファンドの運用戦略のひとつである債券国別配分戦略において評価対象としている主要債券市場の中では、オーストラリア、米国、ドイツの上昇幅が大きかった一方、カナダ、英国は小幅上昇にとどまりました。

各国の国債利回り推移を見ると、オーストラリア10年国債利回りは前月末の3.9%台後半から月を通じて概ね低下傾向となり、3.6%台後半で月を終えました。米国10年国債利回りは前月末の2.2%台前半から概ね低下傾向となり、1.9%台前半で月を終えました。一方、カナダ10年国債利回りは前月末の2.1%台前半から月の半ばには2.0%を下回る水準まで低下したものの、その後はやや上昇傾向となり、結局2.0%近辺で月を終えました。英国10年国債利回りも同様の推移となり、前月末の2.2%近辺から月の半ばには2.0%近辺まで低下したものの、後半は上昇傾向となり、結局2.1%台前半で月を終えました。

##### 〈為替市場〉

当月の為替市場は、主要通貨が円に対して全般的に下落しました。本ファンドの運用戦略のひとつである通貨配分戦略において評価対象としている主要10通貨のうち、対円下落率が大きかったのは、スウェーデン・クローナ、ユーロ、デンマーク・クローネなどでした。一方、対円下落率の小さかったのは、英ポンド、カナダ・ドル、オーストラリア・ドルなどでした。

##### ◎投資対象の評価

##### 〈資産配分〉

債券に対して、モメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしています。

##### 〈債券国別配分〉

ユーロ圏や英国に対して強気の見通しとする一方で、米国や日本に対して弱気の見通しとしています。ユーロ圏に対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリュウの観点から強気の見通しとしています。米国に対しては、バリュウとマクロの観点から弱気の見通しとしています。日本に対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

##### 〈通貨配分〉

オーストラリアやニュージーランドに対して強気の見通しとする一方で、日本や英国に対して弱気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、資金フローの観点から強気の見通しとしています。ニュージーランドに対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。日本に対しては、バリュウの観点から弱気の見通しとしています。英国に対しては、資金フローの観点から弱気の見通しとしています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。



# 〈特別勘定の種類〉 グローバルリートファンド

世界各国の上場不動産投信（REIT = Real Estate Investment Trust）を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることが目標とします。

## 運用実績〈ユニット・プライス\*〉の推移

\* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点（2004年7月12日始）を「100」として指数化したものです。



## 特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
グローバルリートファンド	1.56%	12.86%	13.94%	2.99%	60.73%	16.72%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.2
投資信託	97.8
合計	100.0

## 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

### 日興・AMPグローバルREITファンド(6か月決算型)

グローバルリートファンドの主な投資対象である投資信託「日興・AMPグローバルREITファンド(6か月決算型)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

#### 〈基準価額の騰落率〉

\* 設定日は2004年7月1日

	3か月	6か月	1年	3年	設定来
リート	13.24%	14.37%	3.19%	64.50%	25.74%

※基準価額の騰落率は、分配金（税引前）を再投資し計算しています。

#### 〈不動産投信 国別上位投資比率〉(銘柄数66銘柄)

	国名	比率
1	アメリカ	61.1%
2	オーストラリア	13.9%
3	日本	6.5%
4	イギリス	6.0%
5	フランス	5.0%
6	カナダ	3.1%
7	シンガポール	2.5%
8	香港	0.9%
9	オランダ	0.7%
10	ドイツ	0.2%

※マザーファンドの状況です。  
※比率は、対組入不動産投信時価総額比です。

#### 〈資産構成比〉

不動産投信	96.3%
現金その他	3.7%

※マザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

#### 〈組入不動産投信の予想分配金利回り(年率換算)〉

ファンド全体	4.40%
地域別	
アメリカ	3.60%
カナダ	4.58%
オーストラリア	6.34%
欧州	6.14%
イギリス	4.70%
その他	5.30%

※左記予想分配金利回りは、月末時点で組み入れている各不動産投信の予想分配金利回りをマザーファンド全体、あるいは地域別で不動産投信時価総額のウェイトで加重平均したものです。  
※「地域別」の利回りは、2010年6月30日データより「投資対象国現地で支払う税金控除前」に変更しました。  
※「ファンド全体」の利回りは、2010年6月30日データより「信託報酬（年率1.575%（税抜1.5%）控除前）」に変更しました。  
※左記はAMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドの予想であり、当ファンド及び組入不動産投信の利回り、運用成果等について何ら約束をするものではありません。

#### 〈基準価額騰落の要因分解(月次ベース)〉

前月末基準価額	5,606円
当月お支払いした分配金	0円
要	
不動産投信	157円
アメリカ	(127円)
カナダ	(5円)
オーストラリア	(31円)
欧州	(-12円)
イギリス	(5円)
その他	(1円)
為替	-59円
米ドル	(-41円)
加ドル	(-0円)
豪ドル	(-10円)
ユーロ	(-8円)
英ポンド	(0円)
その他	(-1円)
その他	-7円
小計	91円
当月末基準価額	5,697円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

#### 〈運用コメント〉

##### ◎4月のREIT市場について

今月のグローバルREIT市場はまちまちの展開になりました。北米市場は、GDP成長率が市場予想を下回ったものの、原油高から来るガソリン価格の高騰にもかかわらず好調だった小売売上高や住宅関連市場に支えられ上昇しました。欧州市場は先月から一転、政治的・構造的な問題が再浮上し下落となりました。スペインおよびイタリアの資金調達コストの上昇などといった経済面での不安感に加え、フランス大統領選挙で社会党に政権が交代する見通しとなったことや、オランダ連立政権の崩壊などの政治的な不安定要素が投資家心理に大きく影響しました。一方豪州市場は、政策金利引き下げが近い将来行われるという見通しが織り込まれ、特に金利動向に敏感な小売および住宅セクターが牽引役となり上昇しました。主要アジア3市場は、日本が下落、シンガポールと香港が上昇となりました。日本市場では、日銀が資産買入れなどを行う基金の枠を増額する追加の金融緩和を決定しましたが、AA格もしくはそれ以上の格付けの資産に買入れ対象を限定するなど条件が厳しいため、実際の資産買入れ量の拡大については若干の疑問があります。シンガポール市場は、予想を上回るGDP成長率の発表を受けて上昇、香港市場も先月来注目されていた住宅金利引き下げなどを受け上昇しました。

##### ◎運用の概況

米国市場では、相対的バリュエーション面で魅力がやや薄くなった最高級賃貸物件を事業の軸とする住宅REIT、株価が上昇した小売REIT、及び分散型REITを一部売却しました。また、利益確定に十分と見られる水準まで株価が上昇していたオランダの小売REITを売却しました。一方、フランス市場の小売REIT、割安感のあった日本のオフィスREITを追加購入しました。

##### ◎今後の見通し及び運用方針

欧州債務危機拡大防止に向けた国際通貨基金(IMF)の融資能力拡大などの努力が継続的に行われてはいますが、経済問題に加え、政治的な混迷により不安定な様相を呈している欧州圏が最大の懸念であることに変わりはありません。今後ファンドは、緩やかながらも着実な経済回復が見られる北米に対するエクスポージャーを引き上げることを検討します。米国市場では引き続き、安定した成長が見込まれる優良企業に注目する一方で、ファンダメンタルズ改善傾向にも関わらずバリュエーションが低い準優良銘柄にも目を向けていきます。豪州市場に対しては、政策金利引き下げが期待されることからポジティブな見通しを維持します。欧州市場については、市場を取り巻く不透明感が払拭されたとはいえないため、引き続き質を重視した慎重な銘柄選択を徹底します。特に、銀行融資が期待できない二流以下物件を主軸とする銘柄の選択は回避する考えです。アジア市場に関しては、ファンドは引き続き割安感のある優良銘柄に焦点を当てる所存です。

(当ファンドのマザーファンドを運用しているAMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドのコメントをもとに作成)

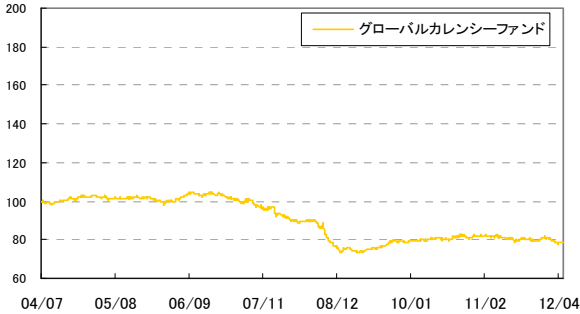
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# 〈特別勘定の種類〉 グローバルカレンシーファンド

短中期債を主な投資対象とし、通貨運用により超過収益を追求する投資信託に主に投資することにより、短期金利を上回る投資成果をあげることが目標になります。

## 運用実績〈ユニット・プライス\*〉の推移

\* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2004年7月12日始)を「100」として指数化したものです。



## 特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
グローバルカレンシーファンド	0.22%	▲3.16%	▲3.24%	▲4.76%	5.95%	▲21.67%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	1.8
投資信託	98.2
合計	100.0

## 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

**メロン・オフショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー**  
 グローバルカレンシーファンドの主な投資対象である投資信託「メロン・オフショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド)

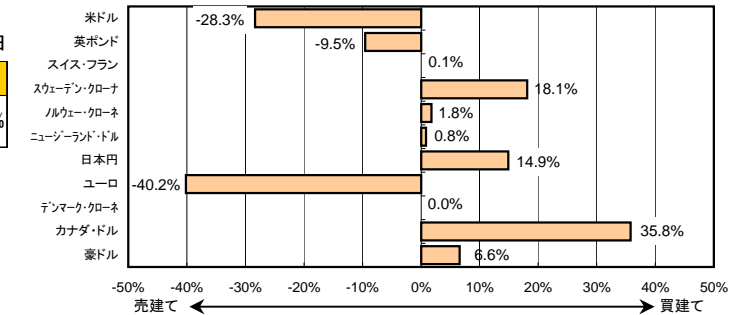
### 〈通貨配分〉

### 〈基準価額の騰落率〉

\* 設定日は2003年11月25日

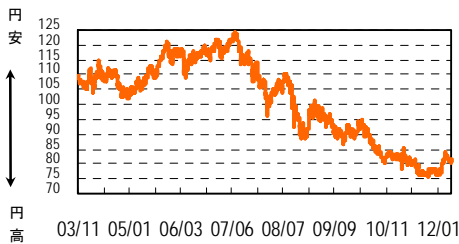
	3カ月	6カ月	1年	5年	設定来
Gカレンシー	▲3.61%	▲2.15%	▲5.00%	▲23.85%	▲21.26%

\* 分配金込み一口あたり純資産価格のパフォーマンス(税控除前)

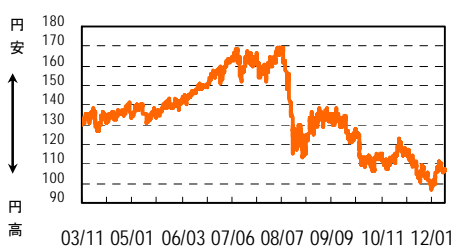


### 〈為替市場の推移〉

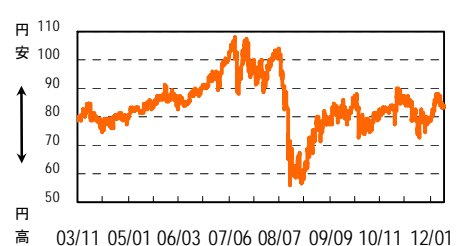
(円/米ドル・レート、単位:円)



(円/ユーロ・レート、単位:円)



(円/豪ドル・レート、単位:円)



### 〈運用コメント〉

#### ・市場環境

当月、英ポンドを除くすべての投資対象通貨が対日本円で下落しました。騰落率順に、英ポンドが対日本円で上昇した一方、カナダ・ドル、米ドル、豪ドル、ノルウェー・クローナ、ニュージーランド・ドル、スイス・フラン、ユーロ、スウェーデン・クローナが対日本円で下落しました。

米国では、米ドルが投資対象通貨に対してまちまちの動きとなりました。英ポンドや日本円などに対して下落した一方、スウェーデン・クローナやユーロなどに対しては上昇しました。当月(4月)、米連邦準備制度理事会(FRB)は政策金利の誘導目標を0~0.25%の範囲に据え置くことを決定しました。声明では、政策金利を少なくとも2014年末まで据え置く方針が確認された一方、2012年の経済成長率予想が上方修正されました。2012年1-3月期実質GDP成長率(速報値、年率)は前期比+2.2%となり、前四半期伸び率、事前予想をともに下回りました。3月のISM製造業景況指数は53.4と前月の52.4から上昇しました。

日本では、日本円が英ポンドを除く全ての投資対象通貨に対して上昇しました。日本銀行は当月(4月)、金融政策決定会合で政策金利を0.0~0.1%に据え置くことを決定しました。3月の日銀短観では、大企業・製造業の業況判断指数(DI)がマイナス4と前回調査比横ばいにとどまり、事前予想のマイナス1を下回りました。3月の通関ベース貿易収支(季調済)は6,213億円の赤字となり、前月の3,214億円の赤字から赤字幅が拡大しました。

#### ・パフォーマンス分析

当月は、豪ドル、スウェーデン・クローナの買建てなどがマイナス寄与した一方、米ドルやユーロの売建てなどがプラス寄与し、全体でプラスのパフォーマンスとなりました。

#### ・投資行動

当月は、実質金利などの観点で魅力度の低下したユーロの売建て比率を引き上げました。一方、実質金利などの観点で魅力度が高まったカナダ・ドルの買建て比率を引き上げました。

#### ・運用方針

当月は、実質金利などの観点で魅力度が高いカナダ・ドルとスウェーデン・クローナを買建て比率上位とする一方、実質金利などの観点で魅力度が低いユーロ、イールドカーブ変化の観点で魅力度が低い米ドルを売建て比率上位としています。

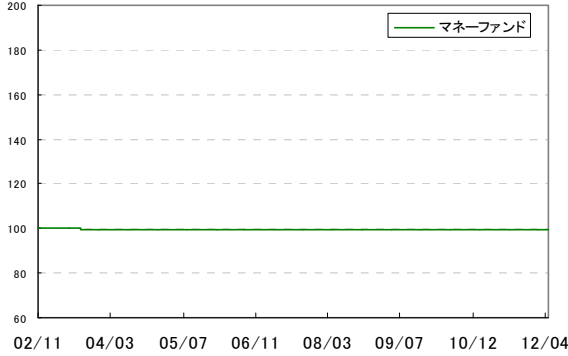
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## 〈特別勘定の種類〉 マネーファンド

他のファンドで運用している資金の一時待機を目的に安定した運用を目指します。  
主に国内の公社債および短期金融商品を中心に投資することにより、安定した収益をあげることが目標になります。

### 運用実績〈ユニット・プライス\*〉の推移

\*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



### 特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
マネーファンド	▲0.01%	▲0.04%	▲0.07%	▲0.14%	▲0.39%	▲0.83%

### 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	11.3
投資信託	88.7
合計	100.0

### 【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

## 日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

マネーファンドの主な投資対象である「日興MRF」の運用コメントをご参考のため掲載します。  
(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

#### 〈組入資産の種類毎の組入比率〉

区分	比率
国債証券	68.4%
地方債証券	0.0%
特殊債証券 (除く金融債券)	0.0%
金融債券	0.0%
普通社債券	0.0%
CP	0.0%
CD	0.0%
その他資産	31.6%
合計	100.0%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。  
※「その他資産」は、コール・ローン、指定金銭信託、現先取引、未収金、未払金等です。

#### 〈組入資産の発行体別組入比率(上位10)〉

公社債(国債、地方債、特殊債を除く)			短期金融資産		
順位	発行体名	比率	順位	発行体名	備考
1			1		
2			2		
3			3		
4			4		
5			5		
6			6		
7			7		
8			8		
9			9		
10			10		

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。  
※「短期金融資産」は、CP、CDです。

#### 〈格付別構成比率〉

公社債		短期金融資産	
格付	比率	格付	比率
AAA	0.0%	A-1	0.0%
AA	68.4%	A-2	0.0%
A	0.0%	A-3	0.0%
BBB以下	0.0%	NR	0.0%
		その他資産	31.6%
A相当以上	0.0%	A-2相当以上	0.0%
	0.0%		0.0%
合計	68.4%	合計	31.6%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。  
※公社債の「A相当以上」及び短期金融資産の「A-2相当以上」は、投資信託協会自主ルール「MMF等の運営に関する規則」に基づき当社が作成したガイドラインで判断したものです。上段は1社の信用格付業者等による信用格付があるもので、下段は信用格付業者等の信用格付がないものです。  
※「その他資産」は、コール・ローン、指定金銭信託、現先取引、未収金、未払金等です。  
※国内発行体はR&I、JCR、Moody's、S&P、Fitchの順に優先して適用し、海外発行体は、Moody's、S&P、Fitchの順に優先して適用しています。  
※日本の国債、政府保証債はAA格、格付を付与されていない地方債は、A格に含めています。  
※政府が保証しているCPはA-1に含めています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。



## ご注意いただきたい事項

### ▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡保険金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる満期保険金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、保険金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

### ▲ 諸費用について

諸費用について	ご契約の締結・維持、死亡保障にかかる費用および特別勘定の運用にかかる費用があります。払込保険料からこれらの費用を差し引き、残りを運用対象額として特別勘定に繰り入れます。したがって、払込保険料の全額が特別勘定で運用されるものではありません。なお、これらの費用は、性別・契約年齢などによって異なり、金額や割合を表示することができませんのでご了承ください。また、これらの費用はご契約後、特別勘定からも定期的に控除されます。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、移転一回につき1,000円を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
投資信託の 信託報酬	日本株投資力学ファンド 年率2.1%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株ジバングファンド 年率1.806%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株エポリューションファンド 年率2.0475%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株インデックス225ファンド 年率0.546%程度
	日本株インデックスTOPIXファンド 年率0.546%程度
	グローバルグロースファンド 年率1.365%程度
	グローバルソブリン債券ファンド 年率1.124%程度
	グローバルリートファンド 年率1.575%程度
	グローバルカレンシーファンド 年率1.5%程度
マネーファンド 年率1.0%以内(投資信託の運用成績等により変動します。2012年4月末:年率0.03274%)	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)には複数の特別勘定グループが設定されており、「LifeDO」・「LifeDO80」には「特別勘定グループ(日興型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(日興型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(日興型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は現在販売しておりません。